

病理学総論

科目責任者 矢澤 卓也

学年・学期 2学年・3学期

I. 前 文

病理学とは、疾患のメカニズムを総合的に解析する学問領域であり、臨床医学を学ぶうえで必要不可欠な基礎医学である。解剖学、生物学、生化学、生理学などで人体の正常構造や機能を学んだ医学生は、全身に起こる様々な病的状態を理解するために、病理学、微生物学、寄生虫学、免疫学、薬理学などを学び、さらに臨床医学において、患者の病的状態を把握し、診断し、治療する方法を学んでいく。病理学総論では、実際の疾患のメカニズムの基本を肉眼像、顕微鏡像を通じて学び、基礎医学から臨床医学への橋渡しを行う。

病理学総論の骨子は、細胞傷害と修復再生、循環障害、感染症・炎症・免疫、代謝障害、遺伝子・発生の異常、腫瘍よりなり、これらを学ぶことにより、すべての疾患の成り立ちや病態について理解することができる。つまり病理学総論の熟知は、疾患を正しく深く理解することに繋がり、卒後においてもリサーチマインドの涵養に繋がるものである。

II. 担当教員

病理学（内線2181）

矢澤 卓也

矢澤 華子

III. 一般学習目標

様々な臓器に発生する疾患が、病理学総論の骨子である各病態の複合により形成されていることを理解し、疾患に対する病態分析能力を身につける。

なお、疾患の基礎となる様々な病態や病変は、病理学的な用語で表現されることが多い。したがって、臨床医学講義の開始直前であるこの時期に、英語表記を含む用語の意味を正確に把握し、使用できるようになることが肝要である。

IV. 学修の到達目標

- 1) 病理学の基礎となる細胞傷害と修復再生、循環障害、感染症・炎症・免疫、代謝障害、遺伝子・発生の異常、腫瘍について十分な知識を有し説明できる。
- 2) 臨床医学においても頻用される病理学的な用語について説明でき、かつ使用できる。
- 3) 疾患の原因が、臓器にどのような形態的变化をもたらしているかについて、肉眼像、顕微鏡像をイメージしながら説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション

6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	10	31	月	1	病理学概論1	矢澤 卓也	1
2		31	月	2	病理学概論2	矢澤 卓也	1
3	11	2	水	3	細胞傷害と修復再生1	矢澤 華子	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
4	11	4	金	2	細胞傷害と修復再生 2	矢澤 華子	1
5		4	金	3	循環障害 1	矢澤 華子	1
6		7	月	2	循環障害 2	矢澤 華子	1
7		7	月	3	循環障害 3	矢澤 華子	1
8		8	火	2	循環障害 4	矢澤 華子	1
9		8	火	3	感染症・炎症・免疫 1	矢澤 卓也	1
10		9	水	3	感染症・炎症・免疫 2	矢澤 卓也	1
11		30	水	3	感染症・炎症・免疫 3	矢澤 卓也	1
12	12	5	月	2	感染症・炎症・免疫 4	矢澤 卓也	1
13		5	月	3	感染症・炎症・免疫 5	矢澤 卓也	1
14		7	水	3	感染症・炎症・免疫 6	矢澤 卓也	1
15		7	水	4	感染症・炎症・免疫 7	矢澤 卓也	1
16	1	5	月	1	代謝障害 1	矢澤 卓也	1
17		5	月	2	代謝障害 2	矢澤 卓也	1
18		5	月	3	代謝障害 3	矢澤 卓也	1
19		10	火	2	遺伝子・発生の異常 1	矢澤 華子	1
20		10	火	3	遺伝子・発生の異常 2	矢澤 華子	1
21		12	木	2	遺伝子・発生の異常 3	矢澤 華子	1
22		12	木	3	腫瘍 1	矢澤 華子	1
23		13	金	2	腫瘍 2	矢澤 華子	1
24		13	金	3	腫瘍 3	矢澤 華子	1
25		17	火	2	腫瘍 4	矢澤 卓也	1
26		17	火	3	腫瘍 5	矢澤 卓也	1
27		18	水	2	腫瘍 6	矢澤 卓也	1
28		18	水	3	腫瘍 7	矢澤 卓也	1
29		19	木	2	腫瘍 8	矢澤 卓也	1
30		19	木	3	腫瘍 9	矢澤 卓也	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験，反転講義時の口答内容，出席状況を総合的に評価する。

評価の割合は定期試験（70%），口答内容（20%），出席状況・態度（10%）とする。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

[総論講義の参考書]

Robbins Basic Pathology. Kumar V, Abbas AK, Aster JC.

ロビンス基礎病理学 豊國伸哉他訳 丸善

NEWエッセンシャル病理学 長村義之他編 医歯薬出版

標準病理学 坂本穆彦監修 医学書院

解明病理学 青笹克之編 医歯薬出版

ルーピンカラー基本病理学 河原 栄他訳 西村書店

病態病理学 菊池浩吉監修 南山堂

[肉眼形態，組織形態の参考書]

ロビンス&コトラン病理学アトラス 鷹橋浩幸他訳 ELSEVIER

アンダーソン病理学カラーアトラス 山口和克訳 メディカルサイエンスインターナショナル

組織病理アトラス 小田義直他編 文光堂

カラーアトラス病理組織の見方と鑑別診断 赤木忠厚監修 医歯薬出版

正常画像と比べてわかる病理アトラス 下 正宗他編 羊土社

VIII. 質問への対応方法

随時受け付ける（基礎医学棟3階 病理学講座）。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験は原則記述試験となるため，定期試験後に動画，配布物を復習することにより自己学習すること。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：

配信される動画を閲覧し，重要点を確認すること。合わせて参考図書該当項目を通読し，要点を理解しておくこと。

事後学習：

講義で示された重要点について，参考図書および配布物を用いて自己学習すること。

（各所要時間はシラバス別冊を参照）

XII. コアカリ記号・番号

A-8-1), A-9-1), C-3-2), C-4, D-1-4), E-3-1), E-6-1), E-8-1), F-1-18), F-1-25)